

## 地域中核病院を目指す新しい病院

対談者：井坂 茂夫

幸手総合病院 院長

聞き手：鈴木 信夫

みのはな同窓会広報担当常任理事



鈴木：新しい病院を建築するという概念は、次のように伺って

おります。約200床の幸手総合病院は、築30年以上を経ており、駐車場等も手狭のため、立替ないしは別のところへ新しい病院を開院することが検討されていた。今回、JAグループの資金及び他から融資を受けることになり、久喜市へ移転することになった。来年4月に開院する新病院の病床は300床ですが、400床、500床にする考え方もあります。200床の病院から300床に区切った根拠を教えてください。

井坂：臨床研修を念頭に置いて決めました。臨床研修指定病院として機能を発揮する規模の病院は300床が目安と考えました。

鈴木：病院の基本計画が纏まり融資が決まって工事に入りますね。新しい病院の計画立案から工事に入るまで、どれくらいの期間を要していますか。

井坂：私共の病院には特殊な事情があります。おおむね5年前の冬、JAグループと久喜市とのトップ会談により、病院移転と補助に関して内々の同意が得られました。当時の幸手市は、医療政策や医療体制等の問題が絡みあい、幸手総合病院の財務改善、経営の黒字化を追求してきましたが、とても不可能との見込みでした。病院を閉じるか、新たに発展するかを選択をする状況にありました。そのような状況のなかで新築移転の決断をJAグループが下しました。それからの1年間は、周辺の理解を得るための準備期間にあて、その後に設計協議をスタートさせました。その間、JAグループは建設資金面での準備を行っています。

鈴木：これからの大きな課題は、医師の確保になります。救急を中心とすることで、脳外科医などが必要になると考えられますが。

井坂：脳外科については、3人以上の医師がチームを組んで救急を担う体制が具体化しています。各医療分野を学びたい若い医師には、それなりの専門医を配置できる体制が整いつつあります。

鈴木：地域病院に求められている小児科、産婦人科への配慮を伺います。

井坂：平成17(2005)年に決まった新病院構想の第一期構想には、周産期小児の救急を担うという目標を掲げましたが、その1年後、福島県立大野病院産科医逮捕事件が発生して、産科医が業務上過失致死と医師法違反の容疑で逮捕、起訴されました。それ以降、産科医療の崩壊が始まり雪崩現象となりました。産科医療スタッフを持っていない当院では、周産期小児医療の構築は出来ないとの状況判断から、新病院には産科と小児科は設けません。出来ないことにあがくよりは、やれることを充実するという方針です。10年後に新病院が発展・成長した時には、周産期や小児科を包含した医療を地域中核医療として、新たに目指したい。そのような大きい流れのなかで考えています。

鈴木：あまり充実していない埼玉県内の地域医療に関して、例えば、産科や小児科医療を

どのように充実させようとしているか、埼玉県としてのプランニングはありますか。

井坂：利根南保健医療圏（久喜市、幸手市と宮代町他5町）において、県は地域の事情に応じて対応するように考えています。小児科は医療法人土屋小児病院（久喜市）があります。8人の小児科常勤医を要して小児救急の中核病院として機能しています。この地域での小児中核を目指している単科の私立病院がありますので、そちらに戦力の集約をお願いしようと考えています。土屋小児病院理事長の土屋與之（昭25）先生は、大先輩です。

鈴木：この保険医療圏には、産婦人科関係で中核となる病院や医院は無い。

井坂：2年前、自治医科大学附属さいたま医療センター（大宮市）に産科と小児科が開設され、周産期医療を担うことになりましたので、この地域の人たちも受け入れるだろうと思います。暫くは、そちらで対応して貰うように考えています。

鈴木：（仮称）久喜総合病院からさいたま医療センターまでは、車で30分ぐらいで行ける場所ですか。

井坂：そうです。

鈴木：平成23（2011）年4月から開院する病院について、重点的に準備していることなどを伺います。先程、ソフト面でお伺いしたのですが、JAグループの病院という特殊性や、病床300から来る制約もあるかと思われます。

井坂：計画当初は500、800床も検討しましたが、未だに500床の要望はあります。JAグループの病院ですが、朝市デーなどを日常的に開催して元気で病院へ来て貰う、地域の皆さんと病院との繋がりを積極的に作っていければ、と考えています。

鈴木：真近にヘリポートが設置されている消防署があり、緊急時の連携が可能と聞きました。災害拠点病院機能を含めて、将来性の高い発展しうる総合病院であることが分かりました。それ以外に、補足することがあればお願いします。

井坂：（仮称）久喜総合病院の理念として、地域全体を発展させる推進力になる、地域の発展に貢献する病院になることを掲げています。当院のスタッフ一同は、その目標に向かって邁進したいと考えています。

鈴木：新しい病院の発展を期待して、インタビューを終えたいと思います。有難う御座いました。